

主 題：愛する主にお会いする2

聖書箇所：ローマ人への手紙 13章12-14節

私たちは11節からパウロの教えを学んで来ています。パウロは私たちに「みことばの教えを実践しなさい」と言いました。神のみこころを知るだけでなくそのみこころに従って行くようにと、パウロはそのことをローマにいるクリスチャンに忠告しています。

A. どうして、今すぐにみことばの教えを実践することが必要なのか？

その理由は ⇒ 11節「救いが近いから」、「さばきの日が近いから」、だから、眠っていないで目を覚ましなさい、今こそ、信仰者としてそれにふさわしい歩みを為していきなさいと、パウロはそのことを私たちに命じました。この命令を見ると、そこには例外がありません。この命令はすべての信仰者に、すべての時代の信仰者に対して与えられているものです。

B. どうすれば、この教えの実践を行なうことができるのか？

その方法を教えています。というのは、私たちはみことばを聞いていてもその実践は難しいと思うからです。そこでパウロは私たちに四つのアドバイスを与えてくれます。

B. その方法：どのようにすれば実践ができるのか？

1. 適切な選択 = 12b節-13節
2. 適切な武具 = 神の武具によって
3. 適切な助け = 神の助けをいただく
4. 適切な心 = 12b節-13節

一つひとつ見て行きましょう。

1. 適切な選択 12b節-13節

12-13節「夜はふけて、昼が近づきました。ですから、私たちは、やみのわざを打ち捨てて、光の武具を着けようではありませんか。：13 遊興、酩酊、淫乱、好色、争い、ねたみの生活ではなく、昼間らしい、正しい生き方をしようではありませんか。」、このみことばを見ると、少なくとも、生き方が対比されていることが分かります。

- ・やみのわざを打ち捨てるのか ⇔ やみのわざを継続するのか
- ・光の武具を着けるのか ⇔ 光の武具を着けないのか
- ・遊興などやみのわざを継続するのか ⇔ 昼間らしい正しい生き方をするのか

つまり、パウロが私たちに言うことは、私たちは正しい選択をしなければならないということです。今見ているこの節には三つの動詞が記されています。それは、「打ち捨てて」「着けよう」「正しい生き方をしよう」です。これらは非常に大切なことです。キリスト者の生き方を教えているからです。

1) やみのわざを打ち捨てて

「打ち捨てて」：「(上着を)脱ぐ、(何かを)放棄する、捨て去る」という意味。

「やみのわざ」：道徳的に汚れた着物を脱ぎ捨てること。

2) 光の武具をつけよう

「(上着を)着る、身に着ける」という意味、私たちは神が喜ばれることを身に着けよう、神の栄光を現わすことを身に着けて行こうと言うのです。

3) 生き方をしようではありませんか

間違った生き方を止めて神が喜ばれる正しい聖い生き方を継続していこうと決心、実践することです。このようにパウロは勧め、そして、このメッセージを聞いている一人ひとりがそのような選択をすることを望んでいるのです。ですから、これらは神があなたに望んでおられることと同じです。昼間らしい正しい生き方をして行こうと言われるから、私はそのような生き方をして行きたいとして正しい選択を為すことを、神はあなたに望んでおられるのです。なぜ、このことが必要なのでしょうか？

・正しい選択をする理由？

13節に「昼間らしい、正しい生き方をしよう」とあります。これを直訳すると、「昼の者として正しい生き方をしようではありませんか？」となります。パウロは「あなたはもう昼の者なのです。」と、つまり、「あなたはもうすでに救われているのですから」と言うのです。パウロは1テサロニケ5：5で「あなたがたはみな、光の子ども、昼の子どもだからです。私たちは、夜や暗やみの者ではありません。」と言っています。私たちは暗やみから救い出されて光の中に招かれた者たちだから、光の子であり、光がある昼の者なのです。ヨハネ12：46にはイエスがこのように言われたとあります。「わたしは光として世

に来ました。わたしを信じる者が、だれもやみの中にとどまることのないためです。」と。救われた者としてそれにふさわしい生き方をして行きなさい、正しい、正直な、神の前に正しい生き方をもって歩んで行きなさいと。

そのために、私たちがしなければならない選択は、神を喜ばせることのない、救いに与る前のやみの生活、それらを捨て去ることです。そのリストが13節に記されています。ここには六つの名詞が記されています。

・捨て去るべきリスト

(1) **遊興の生活**：「遊興」とは元来、お酒の神であったバッカス、また、その他の神々を祝う祝賀行列という意味をもったことばが使われています。そこから酒宴ということばが出て来ました。神学者のバークレーは「やかましく飲み騒ぐ人の群れ」と説明しています。お酒を飲んで騒ぎまわっている人たちの様子です。

(2) **酩酊の生活**：泥酔です。

この二つのことばは、強い酒の乱用を指しています。お酒に酔って我を失っている姿です。

(3) **淫乱の生活**：これは元々は「婚姻の寢床」という意味です。自分の快樂のままに欲望を満たすということ、性的な不道徳のことです。同棲、既婚者どうし、夫婦以外の性を表わしています。

(4) **好色の生活**：放逸な欲望、放縦な生活です。男女間のだらしない振る舞いのことです。バークレーはこのように説明します。「ギリシャ語の中で最も醜悪なことばの一つで、不道徳を表わすだけでなく、恥じることを忘れた人を表わしている。多くの人は自分の悪しき行為を隠そうと努め、また、隠れて罪を犯そうとするが、この人はそんなことを問題にしない。彼はだれが見ていようと構いなく大っぴらにさらけ出しても一向に平気である。」と。

この「淫乱」も「好色」も性的不道徳です。

パウロはこれらの四つの名詞を複数形で書いています。というのは、様々な罪がここには含まれているからです。酒にまつわる多くの罪があり、たくさんの性的な罪があるからです。パウロはそれにまつわるあらゆる罪を捨て去りなさいと言うのです。

(5) **争いの生活**：不和、口論という意味をもったことばです。バークレーは「地位、権力、名声に対する欲望、優れている者に対する憎しみ、下位に甘んじようとしめない心から起こる、人を押し退けて自分を前面に出し、皆の正面に位置づけようとする本質的罪である。それはキリスト信仰の愛、アガペーの完全な否定である。」と言います。

(6) **ねたみの生活**：悪い意味での熱心です。バークレーは言います。「ここでは所有しているものに満足できない精神、他人に与えられたあらゆる祝福を否認し、嫉妬深い目をもって見る精神を表わしている。」と。なぜ、あの人ばかり…、なぜ、あの人だけが持っていて私がないの…と、自分も持っているものにいつまで経っても満足しないのです。これがこの「ねたみ」の意味です。

この二つのことばは最初の四つとは違って単数形で書かれています。つまり、私たちの心の態度を表わしているのです。いつも自分が中心でなければならない、自分の持っているものに満足しない、このような心の態度を捨て去りなさいというのです。私たちはすでに見て来たように、自分のために生きているわけではありません。私たちは私たちを贖ってくださった主のために生きる者であり、自分よりも人を優先しています。ですから、そのような生き方とは全く相反する生き方、つまり、私たちがまだ主イエス・キリストの救いを知らなかったとき、救われる前の生活のことです。それらを捨て去りなさいと。

ここでパウロが言っていることは「選択」です。どのような生き方をするかです。信仰者の皆さん、私たちは神のみことばを聞いて神のみこころを知ったときに、そこには「選択」が生まれます。それに従うか従わないかです。それにあなたが正しい選択をしそれに従って行くなれば、神はあなたを大いに祝してくださる、そのことは経験されているでしょう？しかし、あなたがそのみこころに従っていかないという選択をしたときに、悲しいことに、あなたはこの祝福を経験することはないのです。ですから、私たちが覚えなければいけないことは、私たちが誤った選択をしたときにその責任はだれにももってゆけないということです。「〇〇さんがこうしたから、こう言ったからこのようなことが起こった」とその責任を他人に転嫁したいのですが、神は「それはあなたの責任だ」と言われるのです。間違った選択をするのか正しい選択をするのか、それは私たちの責任なのです。

ですから、パウロはまず私たちに「正しい選択をなさい」と言います。神がしなさいと言われることをすることです。神がこのように行ないなさいと言われることをすることです。私たちにあって正しいかどうかではなく、神にとって正しいか正しくないかが問題なのです。神の前に正しいことを選択してゆきなさいと言うのです。ですから、今日、皆さんがみことばを聞いて、みことばの実践に励みなさいと言われたなら、私たちは「私はそのように生きてゆきたい、私は今日からそのように生きて行く選択をします」と決心することが神に喜ばれることです。

2. 適切な武具

1) 武具の必要性

武具によって戦うから、正しい武器、適切な武具が必要だと言うのです。12節に「**光の武具を着けようではありませんか。**」とあります。なぜ、みことばの実践において私たちに武具が必要なのでしょう？みことばの実践を妨げようとする敵が存在しているからです。あなたの敵はあなたがみことばの実践に励むことを望んでいません。なぜなら、あなたがみことばの実践に励めば、あなたは変えられて行くからです。あなたがみことばの実践を始めるとあなたが主イエス・キリストに似た者にならなくなって行くから、あなたの敵はそれを望まないのです。ですから、あなたを何とかして、みことばの実践から遠ざかるように、みことばの実践を行なっていないようにと誘惑するのです。だから、しっかりと武具を着けなさいと言うのです。

エペソ人への手紙の中に、皆さんもよくご存じのように神の武具のことが記されています。パウロはこのように言います。エペソ6：12-13「**私たちの格闘は血肉に対するものではなく、主権、力、この暗やみの世界の支配者たち、また、天にいるもろもろの悪霊に対するものです。**」、だれが敵なのかははっきり記されています。サタンや悪霊たちに対する戦いだと言うのです。この社会はサタンたちによって支配されています。この世の価値観はサタンが持っている価値観です。それらに対して私たちは戦って行くと言うのです。「:13 ですから、**邪悪な日に際して対抗できるように、また、いっさいを成し遂げて、堅く立つことができるように、神のすべての武具をとりなさい。**」、パウロはここでローマ書にあったように、神の武具を取りなさいと教えています。ローマ書で「**光の武具を着けようではありませんか。**」と言ったパウロは、ここでは「**神のすべての武具をとりなさい。**」と言います。

これはすぐにしなければいけないことです。そのことをパウロはエペソ人への手紙6章で言うのです。13節に五つの動詞が出て来ます。(1) 対抗、(2) できるように、(3) 成し遂げて、(4) 堅く立つことができる、(5) とりなさいと、これらはすべて同じ時制で書かれています。なぜ、そうしたのでしょうか？パウロはあることを伝えたかったからです。それは武具をとることの緊急性を教えたかったのです。「今、すぐに、そうしなければいけない！」と言うのです。非常に緊迫した命令を与えたのです。なぜなら、今、我々は邪悪な日に生きているからです。13節「**邪悪な日に際して対抗できるように、**」と、そのような日がやって来るということではありません。もう、私たちはその日の中にいると言うのです。今すぐその武具を身につけなければ、私たちの敵はあなたがみことばの実践に励んで行かないように妨げると言うのです。

2) 武具の説明 エペソ6：14-17

どのような武具を私たちが身につけるべきか？エペソ6：14-17に記されている六つの武具を見てください。「**では、しっかりと立ちなさい。腰には真理の帯を締め、胸には正義の胸当てを着け、:15 足には平和の福音の備えをはきなさい。:16 これらすべてのものの上に、信仰の大盾を取りなさい。それによって、悪い者が放つ火矢を、みな消すことができます。:17 救いのかぶとをかぶり、また御霊の与える剣である、神のことばを受け取りなさい。**」

(1) 腰には真理の帯

14節に「**…腰には真理の帯を締め、**」とあります。まず、私たちが描かなければいけないのは、ローマの兵士の姿です。なぜなら、パウロはこのときローマの兵士の姿を描きながらのみことばを記しているからです。しっかりと帯を締めていたのです。なぜ、帯を締めるのか？皆さんもそうでしょう。着物を着て何か家事をするときは着物が邪魔になるから、着物が乱れないようにとしっかりと帯を締める訳です。兵士たちが戦場に出て行くときに、彼らがしっかりと戦えるように、同じように、自分たちの上着に帯を締めてそれが広がらないようにするのです。そうでなければ戦えないからです。

その姿を描いていたパウロはこのように言います。「**腰には帯を締めなさい**」ではなく「**腰には真理の帯を締め、**」と。戦うためには大切なことです。戦いに出て行くためにみな帯を締めたのです。パウロは「**あなたは信仰者として真理の帯をしっかりと腰に結んでおきなさい。**」と言うのです。私たちはイエス・キリストを知ることによって真理が何であるかが分かりました。イエスは「**わたしが道であり、真理であり、いのちなのです。**…」(ヨハネ4：7)と言われました。私たちはみことばを通して何が真理であるかを教えられています。パウロが最初に言うことは「**どんな時でも、みことばの真理に立って歩んで行きなさい**」です。いろいろな人間の考えや、人間の経験、いろいろな慣習や伝統、教会の伝統もあります。私たちが立つのはそのようなものではありません。私たちは神のおことばに立つのです。これが真理だからです。兵士たちが帯を締めて戦いに出て行ったように、我々も真理という神のおことばにしっかりと立って戦いに出て行きなさいと言うのです。私たちが目指さなければいけないこと、また、皆さん一人ひとりが目指すべきことは、常に、神の真理に立つということです。

(2) 胸には正義の胸当て

「胸には正義の胸当てを着け、」とあります。この「胸当て」とは、私たちの内蔵を守るものです。昔、ユダヤ人たちは「心臓」とは「心や意志」を表わす器官であり、「内蔵」は「感情や知覚感覚の源」であると考えていました。そのような大切な臓器を守るために、兵士たちは胸当てを着けたのです。パウロが言います。「私たちはもうすでに、神の正義を、神の義をいただいた者として、しっかりと自分の心を守って、義とされた者にふさわしく義を行なって生きなさい」と。私たちは自分の心を胸当てが守るように、常に、心を罪から守って行きなさいと言われていたのです。罪から離れて正しい歩みをし続けなさいと言うのです。義なる者として、義なる行ないを為して行きなさいと。ですから、いろんな誘惑がある時に、私たちは神の前に何が正しいのかをしっかりと考えて、それを実践していくことです。

(3) 足には平和の福音

15節「足には平和の福音の備えをはきなさい。」、兵士たちがサンダルを履いて戦いに行くのです。その姿を思い出してください。この「備え」とは、準備ができているとか用意ができている、そのような状態を指しています。つまり、いつでも福音を伝えて行くように、福音宣教の重要性とその緊急性をパウロは教えるのです。あなたは福音を信じることによって神との間に平和をいただいたゆえに、このすばらしい平和の福音を伝え続けていきなさいと言います。

恐らく、皆さんも今までの信仰生活の中で経験なさったと思います。いろんな誘惑の中に生きていて自分自身を守る方法の一つとして、ありとあらゆる人たちに福音を語り始めたらどうですか？結構、自分自身が守られませんか？私も学生時代にできるだけ多くの人たちに福音を語ろうと思った時に、学校が終わってからいつもどこかに遊びに行こうと言って来る連中が、誘わなくなって来ました。「あいつといっしょに行くといエスの話をされるから」と誘って来なくなりました。一瞬は寂しく思ったのですが、自分自身を守る方法として、私たちが伝えるメッセージはいつも変わっていません。イエス・キリストの平和の福音を語るのです。よく考えると、このメッセージこそ彼らが聞かなければいけないメッセージであり、そのメッセージこそ私たちが誇りとしているメッセージです。

パウロは当然、イザヤ52：7のみことばを描いていたはずで、「良い知らせを伝える者の足は山々の上にあつて、なんと美しいことよ。平和を告げ知らせ、幸いな良い知らせを伝え、救いを告げ知らせ、「あなたの神が王となる。」とシオンに言う者の足は。」とあります。信仰者の皆さん、私たちがイエス・キリストの福音を伝えて行く時に神は喜んでくださる、それだけで十分です。私たちはあらゆる機会を使って人々にこの福音を伝えて行きます。その準備をしないと言います。平和をいただいた者として、その平和の福音を伝える働きをしなさいと言うのです。

(4) 信仰の大盾

16節「信仰の大盾を取りなさい。」、ローマの兵士たちが戦いを挑む時に、小さな盾と大きな盾がありました。兵士たちは大体60センチ位の小さな盾を持って戦いをするのです。でも、パウロがここで言っているのはその盾ではなくもっと大きな盾です。大体1メートル20センチと75センチ位の盾です。そのような大きな盾があったのです。今でも機動隊がそのようなものを持っていますね。映像でよく見ます。なぜ、そんな大きな盾を持つのか？その盾の背後に自分自身の身を隠す訳です。投石などから自分を守るためです。まさに、そのことをここで言っているのです。敵が矢を射って来ます。その矢から自分を守るためには小さな盾ではだめだったのです。大きな盾の背後に自分の身を隠すことによって、そのような矢から自分自身を守ることができたのです。

パウロがここで言うことは、あなたの敵はありとあらゆる方法を用いて、あなたが神に対して疑いを抱くようにと疑いの矢を放って来るということです。私たちがたくさん経験して来たように、様々なことで「どうしてですか、神さま？なぜ、こんなことが起こるのですか？」と私たちは疑いを抱くことがあります。だから、パウロは言うのです。「だから、いつも信仰の大盾を取っていなさい」と。つまり、どんな時でもあなたがしっかりと主に信頼を置くようにと言うのです。どのような誘惑があったとしても、どのような矢が飛んで来ようと、神に対する信頼を失ってはいけないと言うのです。

なぜなら、皆さんご存じのように、私たちの神は信頼に値する神だからです。この方は全能の神です。この方はあなたや私をいのちを捨てて愛を示してくださった方です。この方が言われたことはその通りになるのです。そのような神によって私たちは救われ、そのような神によって私たちはその御手のうちに抱かれているのです。「心配しなくていい」と言います。私たちは後になって「やっぱり神の為さることはすばらしい」と言いますが、もうそろそろレッスンを学ばなければいけません。後になる前に、いろんな問題を抱えている今、「神の為さることは最善である」と、そのような信仰をもって主を信頼すること、そのような信仰者に成長して行くべきだと思いませんか？私たちは疑い深い信仰者から、どんな時でも主を信頼する信仰者に成って行くのです。

パウロは「信仰の大盾を取りなさい」、それによって悪い者が放つ火矢をみな消すことができる、信頼を忘れてはいけないと言うのです。

(5) 救いのかぶと

「救いのかぶとをかぶり、」とあります。「かぶと」は頭を守るものです。物事を考えるところが頭です。だから、私たちはいろんな考えによって妨げられるのではなく、私たちが考え続けて行くべきことは、私たちがいただいた救いが完成する日を待ちながら、今日を生きて行くことです。もう教えられて来たように、私たちの希望はこの罪から解放されて栄光のからだをいただくことです。しっかりと永遠を見据えて生きることができるのは私たちだけです。あなたにも私にも神は天国を約束してくださったのです。あなたにも私にも神はずばらしい日がやって来ることを約束してくださった。私たちは主に似た者として、主とともに歩むことができます。だから、私たちは常にそのことを考えながら、常に永遠を考えながら今日を生きて行くように、いつも私たちの希望をしっかりと見据えて生きて行くように、その考えをしっかりと守るようと言うのです。なぜなら、多くのクリスチャンが、日々起こる様々なことによって希望を失っているからです。本来なら、私たちはどんな時でも永遠の希望をもって生きていくことができるのに、その希望を持ってない、また、希望を失ってしまった人たちがいます。パウロは「救いのかぶとをしっかりとかぶりなさい」と言います。

(6) みことばの剣

「また御霊の与える剣である、神のことばを受け取りなさい。」とあります。私たちは聖霊とみことばをいただいた者です。だから、私たちはこの聖霊とみことばによって戦いなさいと言うのです。主ご自身がサタンの誘惑をお受けになった時に、主がお使いになった武器はみことばの剣でした。みことばをもってその誘惑に打ち勝たれたのです。私たちもみことばをもって戦い続けて行くのです。そのためには、しっかりとみことばを蓄えなければいけないのです。なぜなら、神は私たちに聖霊をくださり、聖霊なる神は私たちのうちに蓄えられているみことばを使って戦いを成してください。しっかりとみことばを蓄えながら、そして、その与えられたみことばと聖霊をもって戦って行きなさいと言うのです。

このような神の武具が私たちに与えられているのです。今見て来たように、私たちに真理が与えられたのです。しっかりとその真理を腰に巻いて置くようと言います。我々は正義、つまり義とされたのです。ですから、義とされた者に相応しく義なることをやっていきなさい、正しいことをやって行きなさいと言います。私たちは平和をいただいたのです。この平和の福音を信じた者として、その平和の福音を語る者になりなさいと。我々は主がどんなに素晴らしいお方かを知っているのです。ゆえに、どんなことがあっても、しっかりと主に信頼を置いて歩んで行きなさいと。私たちは素晴らしい救いをいただいた者として、その救いが完成する日をいつも考えながら生きて行きなさいと。そして、どんな時にも我々は、主が与えてくださった聖霊なる神とみことばという武器をもって、この剣をもって戦いを成して行きなさいと。

今、私たちは邪悪な日に住んでいると言います。そのために神はこんな武器をくださったのです。しっかりとそれを身に着けて、その武具をもって戦いを戦い続けて行きなさいと言うのです。信仰者の皆さん、私たちにこのような武器が必要なのです。今見て来たこの六つのことをしっかりと覚えてそれを実践するようになってください。神の武具をもって私たちは戦いを挑むのです。パウロが言うように、「私たちは、やみのわざを打ち捨てて、光の武具を着けようではありませんか。」と、私たちはこの武具を身に着けて、しっかりと戦いを成して行きなさいと、そのように言われるのです。

3. 適切な助け

14節に「主イエス・キリストを着なさい。」とあります。

1) 救いに関して

実は「主イエス・キリストを着る」ということばは救いに関して用いられています。ガラテヤ人への手紙3：17に「バプテスマを受けてキリストにつく者とされたあなたがたはみな、キリストをその身に着たのです。」と記されていました。このことばが教えていることは何でしょう？皆さんよくお分かりでしょう。救いのことです。「バプテスマを受けてキリストにつく者とされた」と、つまり、聖霊のバプテスマによってイエス・キリストと一つにされた、イエス・キリストを信じたということです。救いに与ったということです。それに関してパウロは「キリストをその身に着た」と言っています。ですから、確かに「キリストをその身に着る」ということは救いを表わしているのですが、それだけではないのです。

2) 日々の生活に関して

日々の生活に関しても、「イエス・キリストを着る」ということについてパウロはあることを教えるのです。それは、イエスを着た私たちは日々の生活においてイエス・キリストに似た者に変えられ続けているということです。そのような働きがイエスを信じた後に私たちのうちに始まったのです。同じ、ガラテヤ人への手紙4：19に「私の子どもたちよ。あなたがたのうちにキリストが形造られるまで、私は再びあなたがたのために産みの苦しみをしています。」、キリストを着たあなたはキリストに似た者へと変えられ

て行くということです。14節のみことばを見ると、「主イエス・キリストを着なさい。」と書かれていて、「イエス・キリストに倣って生きなさい」とは書かれていません。「主イエス・キリストを模範としなさい」と言っているのではありません。「キリストを着なさい」と言っているのです。

つまり、こう言うことです。「主イエスのいのちの力のうちに歩むこと」、それが「主を着る」ことです。私たちがイエスを信じたときに、私たちはイエスを着たのです。そして、私たちイエスを着た者は、そのイエス・キリストのいのちの力のうちに歩むことが可能になったのです。どういうことか説明します。パウロはこのように言っています。ピリピ4：13「私は、私を強くしてくださる方によって、どんなことでもできるのです。」と、パウロはすごい力が与えられていると言っています。「どんなことでもできる」、すごい力が与えられていると言っています。この「どんなこと」というのは、自分のやりたいこと何でもということではありません。神の望んでおられることです。しかし、彼は言うのです。「私を強くしてくださる方」、神の望んでおられることを実践する力を私に与えてくださる方がいると言うのです。それは「私を強くしてくださる方」だと。

Iテモテ1：12には「私は、私を強くしてくださる私たちの主キリスト・イエスに感謝をささげています。なぜなら、キリストは、私をこの務めに任命して、私を忠実な者と認めてくださったからです。」とあります。ですから、先ほど見たピリピ4：13で「私を強くしてくださる方」がだれのことかは明らかです。主イエス・キリストです。IIテサロニケ3：3には「しかし、主は真実な方ですから、あなたがたを強くし、悪い者から守ってくださいます。」、ヘブル11：34にも「火の勢いを消し、剣の刃をのがれ、弱者なのに強くされ、戦いの勇士となり、他国の陣営を陥れました。」と、つまり皆さん、「キリストを着た」ということは、救われたということだけでないのです。私たちはイエスの力をいただいたのです。だから、パウロは今見て来たように、このように確信をもって言ったのです。ヘブル書の著者もそう言ったのです。時代がどうであれ、信仰の勇者たちに共通していることは、神の力によって生きたのです。生まれながらの私たちのうちにその力があるのではありません。救いをいただき、イエスを着ることによって、その力をもって私たちは生きることができた者になったのです。

そのことをご存じでしたか？何度も繰り返して見ているように、私たち信仰者は、神の命令を聞いたときにそれを喜ぶ者たちであるはずですが、人間的には「それは難しい」と言うかもしれない、私たちの肉はそう叫ぶかもしれません。「そんなことは不可能だ、そんなことは私にできっこない、信仰の浅い私には無理だ。」と。しかし私たちは、信仰者としてその神の命令を聞いたときに喜ぶのです。なぜなら、神の命令に従う、その命令を実践する、その力をもう私たちはすでにいただいているからです。

少なくとも、皆さん、今日から神のみことばを聞くときに、神の命令を聞くときに、それを喜ぶ者になってください。なぜなら、もうあなたには力が与えられているのです、あなたはキリストを着たのです。キリストの力によってあなたは神のみこころに従って行くことが出来る者となったのです。パウロはエペソ人への手紙の1章の中でこのようなことを祈っています。1：19「また、神の全能の力の働きによって私たち信じる者に働く神のすぐれた力がどのように偉大なものであるかを、あなたがたが知るようになります。」と。私たちのうちに働く神のすぐれた力がどんなにすごいのか、私たちのうちに働いている神の力がどんなにすばらしいものか、それをあなたたちが知ることができるようにと。今お聞きになったように、パウロは「そのような力があなたたちに与えられますように」と祈ったのではありません。「信仰者がすでに与えられている力を知ることができるように」と言ったのです。

残念ながら、多くの信仰者はそのことに気付いていないのです。「我々はみんな弱い」と言うのです。「弱い」と言いながら、神の方に助けを求めて行かないのです。ですから、「私は信仰が弱いのです」ということは、実は、「私は神さまの命令に従いたくないのです」と言っているように聞こえます。「キリストを着た」あなたは、神の命令を聞くときにこのように言うことができるのです。「主よ、感謝します。あなたが望んでいることが何かを教えてください感謝します。私はそれを実践して行きたい。そして、感謝です。それを実践するためにあなたが力を与えてくださったことを。どうぞ、その力によって、あなたのみこころを行なっていくように助けてください。」と。

信仰歴が何年かということは問題ではないのです。問題は、このような祝福をいただいたことに気付いて、その祝福を覚えて生きて行くことです。神の力をいただきながら生きて行くことです。「難しい、できない、だめです」と言う信仰者から、「主の力によってできるのだ」と言う信仰者にあなたが変わって行くことです。勝利の力、それはみこころを行なうだけでない、罪に対しても勝利することのできる力です。この力は私たちのうちにあるのではないです。神のうちにあります。その力があなたにも私にも与えられているのです。

ですから、パウロは私たちに「助けをいただきながら生きて行きなさい」と言うのです。正直に言って、私たちの生活は失敗の繰り返しです。失敗の連続です。でも、私たちはそこでめげないのです。それでもなお主を信頼して、そして、主の前に正しいことを主の助けをいただきながら実践していこうと

するのです。そのように歩み続けていきなさいと言うのです。「あなたには助けが備えられている」と言います。

4. 適切な心

14節の後半に「肉の欲のために心を用いてはいけません。」とこのような命令がされています。心を聖く保ち、罪に機会を与えないということです。この「用いる」ということばは「配慮する、考慮する」という意味がありますが、それとともに「好む、関心」という意味もあります。つまり、私たちの心とは非常に大切な部分です。もし、私たちの心の中に少しでも肉の欲に対する関心があるなら、そのようなものを少しでも私たちが好むなら、私たちはそのようなことを必ず行動に移していくということです。だから、私たちはそのようなことをしてはいけません。つまり、私たちの心に肉の欲が入り込んでしまって心の中に留まるようなことがあってはならないと言うのです。私たちは常に心の中のそのようなものを神の助けによって洗っていただかなければいけないのです。ですから、言い方を変えるなら、私たちの心がいつも神の前に正しく保ち続けられて行くようにということです。罪が私たちのうちにあるなら、必ずその罪は私たちを行動へと導いて行きます。心はそのような場所です。私たちの行動を駆り立てて行くところ、行動を導いて行くところ。だから、パウロは「その心を正しく守り続けなければいけない」と言うのです。悪い考えが心に留まっているなら、必ず、悪い行ないがそこから生まれて来ます。ヤコブはヤコブの手紙1：14-15でこのように言いました。「人はそれぞれ自分の欲に引かれ、おびき寄せられて、誘惑されるのです。：15 欲がはらむと罪を生み、罪が熟すると死を生みます。」と、初めに見たように、私たちが罪を犯すのはどうしてか？私たちが罪を愛しているからです。だから、私たちはそのような罪を犯すのです。神のせいではないし、人のせいでもありません。自分がそのような選択をしているのです。悲しい現実、私たちのうちにまだ罪を愛するという問題があることです。だから、パウロは言うのです。「心にそのような肉の欲があってはならない。そのようなものを心に留めておいてはいけません。それらをあなたの心から除きなさい。」と。

今日、パウロは私たちに前回と同じように「みことばの実践に励みなさい」と言いました。それは、私たちイエス・キリストを信じた者たちは、神のみことばに従って行きたいという思いを神からいただいている者たちだからです。そのように言われなくても、みことばの実践に励んで行きたいと思うのが私たち信仰者です。神の前に救われた者に相応しく生きて行きたいという願いを持っているのが私たち信仰者です。だから、そのように生きて行きなさいとパウロは勧めるのです。そのために必要なことは、私たちは「神の前に喜ばれることを実践していきたい」ということを選ばなければいけません。私たちは常に神の武具によって戦いを戦い続けていかなければいけないのです。そうでなければ、すぐに私たちの心はめげてしまうからです。私たちからその希望が失われていきます。どんなときにも私たちは神の助けをいただくのです。その助けは備えられているのです。しっかりとその助けを仰ぎながら歩んで行きなさい、そして、私たちの心を常に神の前に正しく保ちなさい、そのようにして歩んで行くのだと、パウロは私たちに教えてくれました。

そのように歩んで行きましょう、皆さん！それがパウロが私たちに教えてくれた主のみこころです。そして、あなたがそれを実践するときに、私たちが学んで来たように、神の栄光が現われるだけでなく、何よりも神が喜んでくださるのです。それが私たちの望みであるはずで、主が喜んでくださること、そのことを実践しながら、私たちの感謝を主に現わして行きましょう。感謝の生き方、それこそ私たちが覚えながら実践していかなければいけない生き方だと私たちは知っています。そのような歩みをもって、主のすばらしさを現わし続けながら、神の栄光を現わしていただきたい、そのことを願います。

《考えましょう》

1. 我々は罪に勝利することができるのでしょうか？その理由を挙げてください。
2. 罪に勝利するための方法を教えてください。
3. 「脱ぐこと」と「着ること」の意味を説明してください。
4. 神の武具を説明してください。